News Release

2026 年 11 月 10 日

報道関係各位

生薬産地における生物多様性の保全と地域振興を推進

自然共生サイトに初認定

～「あさぎり町丸池　自然共生サイト認定証授与式」を開催～

株式会社ツムラ（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO 加藤照和、以下「当社」）は、熊本県あさぎり町、一般社団法人球磨川 NP、株式会社肥後銀行の 4 者共同で申請した「あさぎり町丸池生物多様性保全活動」の実施区域である「あさぎり町丸池」が、環境省の定める自然共生サイトとして認定されたことをお知らせします。自然共生サイトの認定は、当社において初となります。

認定を受け、2026 年 11 月 6 日には、あさぎり町役場で「あさぎり町丸池　自然共生サイト認定証授与式」が行われ、環境省九州環境事務局長から認定証を授与されました。



認定証授与式の様子（左から）肥後銀行 地域振興部長 大野様、あさぎり町長 北原様、環境省九州環境事務局長 番匠様、球磨川 NP 代表理事 一柳様、ツムラサステナビリティ推進部長 犬飼

自然と健康を科学する

お問い合わせ先
株式会社ツムラ　コーポレート・コミュニケーション部　広報課 担当：林・吉崎・髙松
〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11　TEL.03-6361-7100 shuzai@mail.tsumura.co.jp

■自然共生サイトについて

自然共生サイトは、「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」に基づき、企業や自治体、NPO などが行う生物多様性の維持・回復・創出に資する活動の実施計画とともに、その実施区域として認定される区域を指します。この制度は、2030 年までに陸域と海域の 30%以上を保全する「30by30 目標」の達成や、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現を目指す取り組みの一つです。認定区域のうち、生物多様性を維持する計画の実施区域については、国立公園等の保護地域との重複部分を除き、OECM（Other Effective area-based Conservation Measures：保護地域以外で生物多様性保全に資する区域）として国際データベースに登録されます。

（参考）自然共生サイトについて｜独立行政法人環境再生保全機構

■「あさぎり町丸池」について

丸池は、あさぎり町の町花であるリュウキンカの自生地南限として知られる湧水湿地であり、湧水生態系や希少な動植物の生息・生育環境として重要な役割を果たしています。丸池は、町や地域住民などにより長年にわたって保全されてきましたが、近年は湧水量の減少など、湿地環境の変化が見られています。そのため、当社は多様な関係者とともに、リュウキンカを含む生態系の維持・回復に向けた継続的な取り組みを支援していきます。



丸池に生息しているリュウキンカ

■自然共生サイトへの申請の背景

当社は、主力となる漢方製剤の製造・販売事業を支える生薬産地とのつながりを大切にしています。生薬産地において、豊かな自然環境を保全し、地域の産業や歴史を次世代へつなぐことを目指すとともに、将来にわたり大切な地域の Well-being を実現すべく、地域保全や教育活動などに取り組んでいます。また熊本県は、当社にとって主要な生薬産地の一つです。なかでもあさぎり町は、漢方製剤の原料生薬である柴胡（サイコ）の国内最大の調達先です。人吉球磨地域における生薬供給の拠点の「あさぎり薬草合同会社」が所在していることからも、当社とは深い関わりがあります。

そのような背景のもと、当社は、2026 年 4 月に、あさぎり町、一般社団法人球磨川 NP、株式会社肥後銀行および「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会地域共創拠点」とともに、地域の自然環境の維持・向上と地域振興の推進を目的とした 5 者による地域包括連携協定を締結しました。

今回認定された「あさぎり町丸池生物多様性保全活動」は、この協定に基づく取り組みの一つとして実施されるものであり、リュウキンカをはじめとする生物多様性の保全や地下水循環の維持・回復、環境教育や情報発信などを通じて、地域の自然と暮らしを次世代へつなぐことを目指しています。

https://www.tsumura.co.jp/news/newsrelease/item/20260605.pdf

■ツムラ代表 サステナビリティ推進部長 犬飼 律子による挨拶（一部抜粋）



サステナビリティ推進部
部長　犬飼 律子

当社は「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、自然資本を事業の重要な基盤と捉え、その保全に取り組んでいます。熊本県あさぎり町は、医療用漢方製剤の原料生薬を生産いただいている大切な地域であり、生産者の皆様には長年にわたり当社の事業を支えていただいています。

今回の協定を契機に、地域に根差し、サステナビリティの取り組みを推進されている地域の皆さまとの連携をさらに深めていきます。生物多様性の保全や気候変動対策に加え、次世代の皆さまが自然や地域の課題について学び、自らの言葉で伝えていく機会の創出にも取り組み、あさぎり町の豊かな自然と地域活動を未来へつないでいきたいと考えています。

本活動において当社は、生薬産地で培った知見やネットワークを生かし、肥後銀行とともに、雨庭や農地など、丸池の集水域における浸透機能の向上に向けた取り組みを支援していく計画です。また、丸池の生物多様性や保全活動の意義を広く伝える情報発信、環境教育を含む地域連携にも取り組みます。今後も地域の皆さまとともに、自然環境と地域社会が持続的に発展する地域づくりに貢献していきます。

以上

（参考）

■リュウキンカについて

湿地や水辺に生育するキンポウゲ科の多年草で、春先に鮮やかな黄色い花を咲かせます。あさぎり町の町花に指定されており、丸池地区が国内における自生地の南限とされています。地域の象徴的な花であるリュウキンカは現在、気候変動や自然環境の変化などにより、その生育環境の保全が課題となっています。



■ツムラのサステナビリティに関する取り組み

当社の事業は、原料生薬の栽培から製造・販売に至るまで、自然環境と深く結びついた漢方バリューチェーンによって成り立っており、生物多様性や自然資本の保全は、事業基盤を支える重要な要素の一つです。このような考えのもと、ツムラは生薬産地・生産拠点を中心に、自然環境保全や地域振興に資する取り組みを進めています。詳しくは下記をご覧ください。

ツムラコーポレートサイト「サステナビリティについて」
https://www.tsumura.co.jp/sustainability/